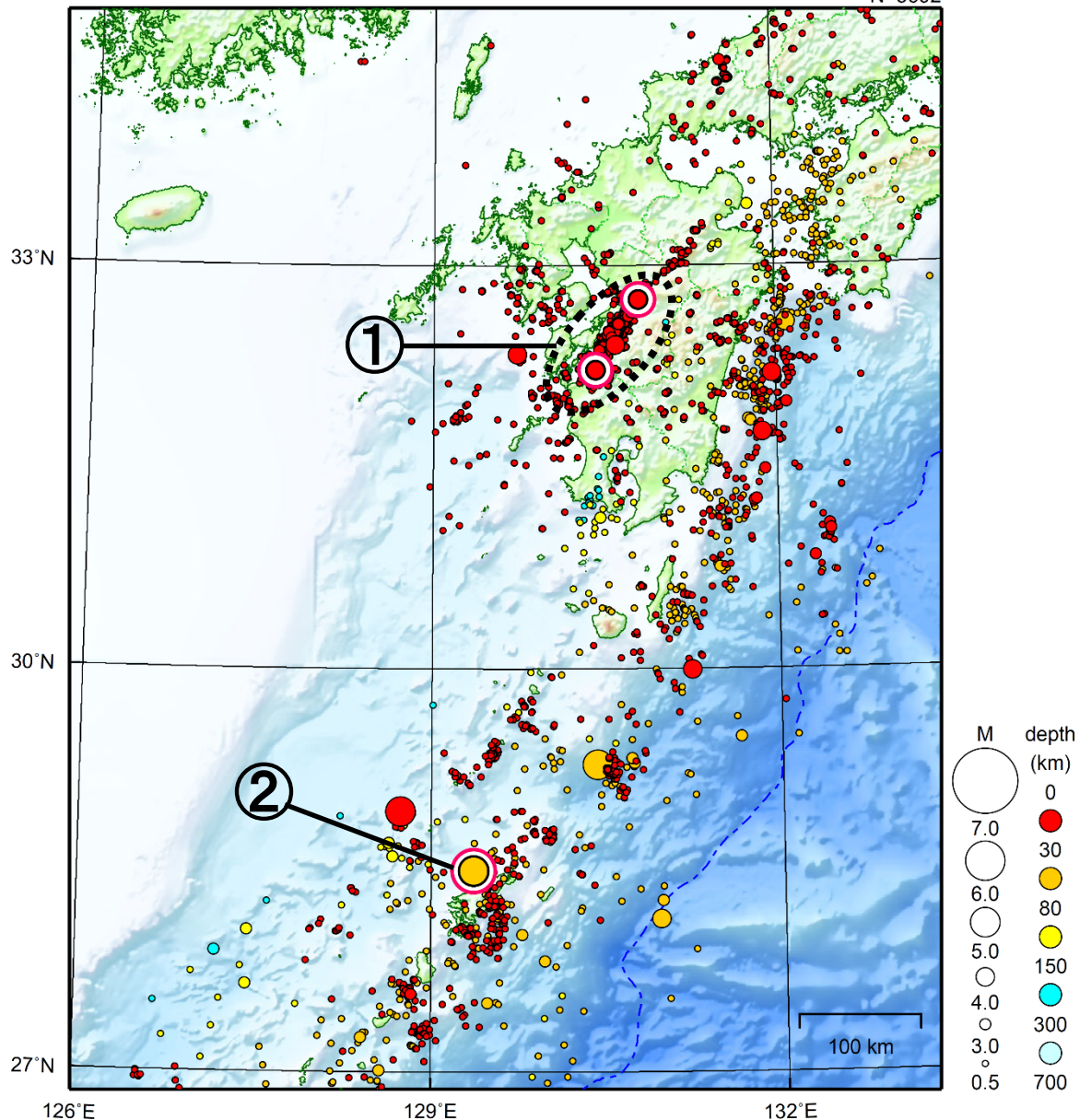


九州地方

2026/09/01 00:00 ~ 2026/09/30 24:00

N=5692



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 「令和 8 年熊本地震」の地震活動域では、9 月中に震度 1 以上を観測した地震が 79 回（震度 4：2 回、震度 3：4 回、震度 2：19 回、震度 1：54 回）^{（注）} 発生した。このうち最大規模の地震は、26 日に発生した M4.6 の地震（最大震度 4）である。
- ② 9 月 20 日に奄美大島近海で M5.0 の地震（最大震度 3）が発生した。

（注）掲載している地震回数は、後日の調査で変更になることがある。

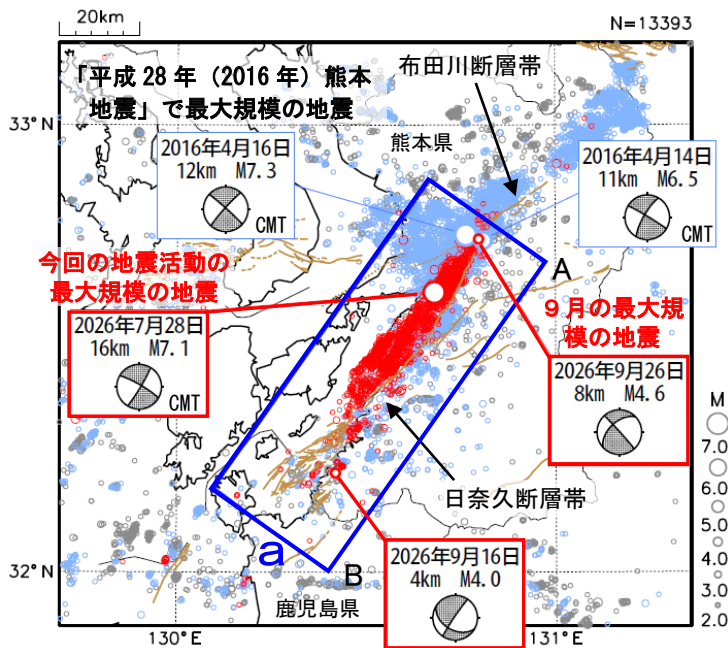
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

「令和 8 年熊本地震」の地震活動

震央分布図

(2000 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日
深さ 0 ～20km、 $M \geq 2.0$)

2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を灰色○
2016 年 4 月 14 日 21 時以降の地震を青色○、
2026 年 7 月 28 日 16 時以降の地震を赤色○で表示
茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す



「令和 8 年熊本地震」の地震活動は、地震の発生数は平常時と比べて多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。

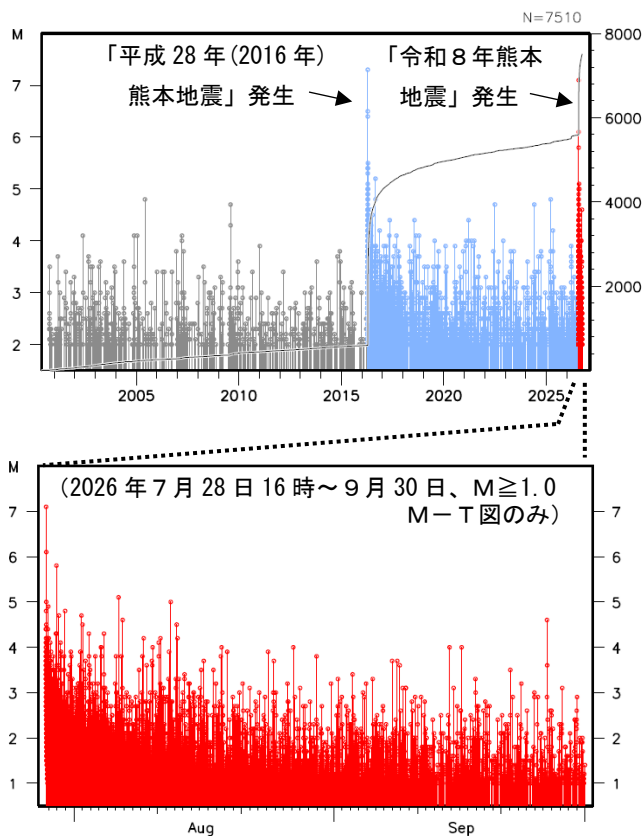
9 月中に震度 1 以上を観測した地震は、79 回^(注) (震度 4 : 2 回、震度 3 : 4 回、震度 2 : 19 回、震度 1 : 54 回) 発生した。このうち最大規模の地震は、26 日 10 時 31 分に発生した M4.6 の地震 (深さ 8 km、最大震度 4) である。この地震は地殻内で発生した。発震機構は南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

今回の地震活動により、死者 38 人 (災害関連死の可能性のある死者を含む)、負傷者 373 人、住家全壊 2,270 棟、半壊 6,357 棟などの被害が生じた (被害は 2026 年 9 月 24 日 17 時 00 分現在、総務省消防庁による)。

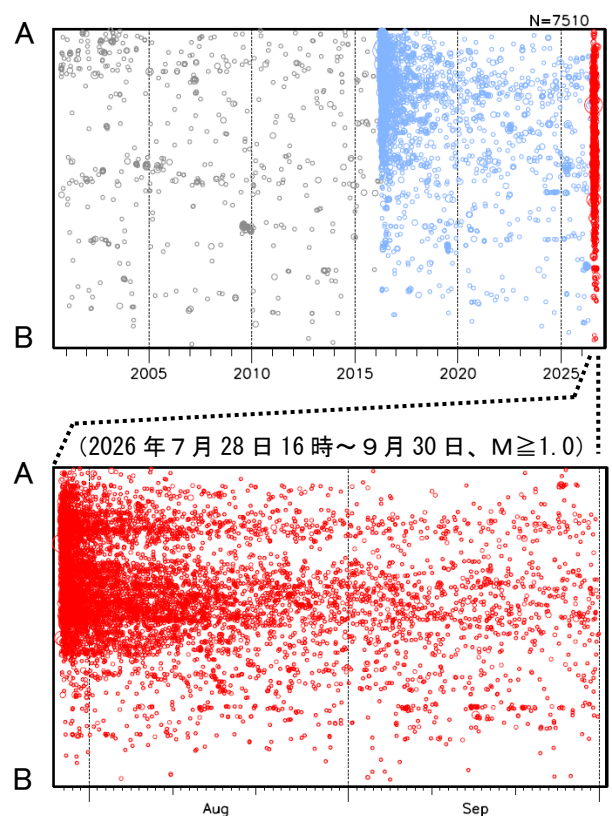
2000 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震活動域の周辺 (領域 a) では「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」が発生している。「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」では、熊本県で死者 275 人、大分県で死者 3 人などの被害が生じた (熊本県は 2025 年 4 月 11 日現在、熊本県による、その他は 2019 年 4 月 12 日現在、総務省消防庁による)。

(注) 掲載している値は後日の精査で変更する
場合がある。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)

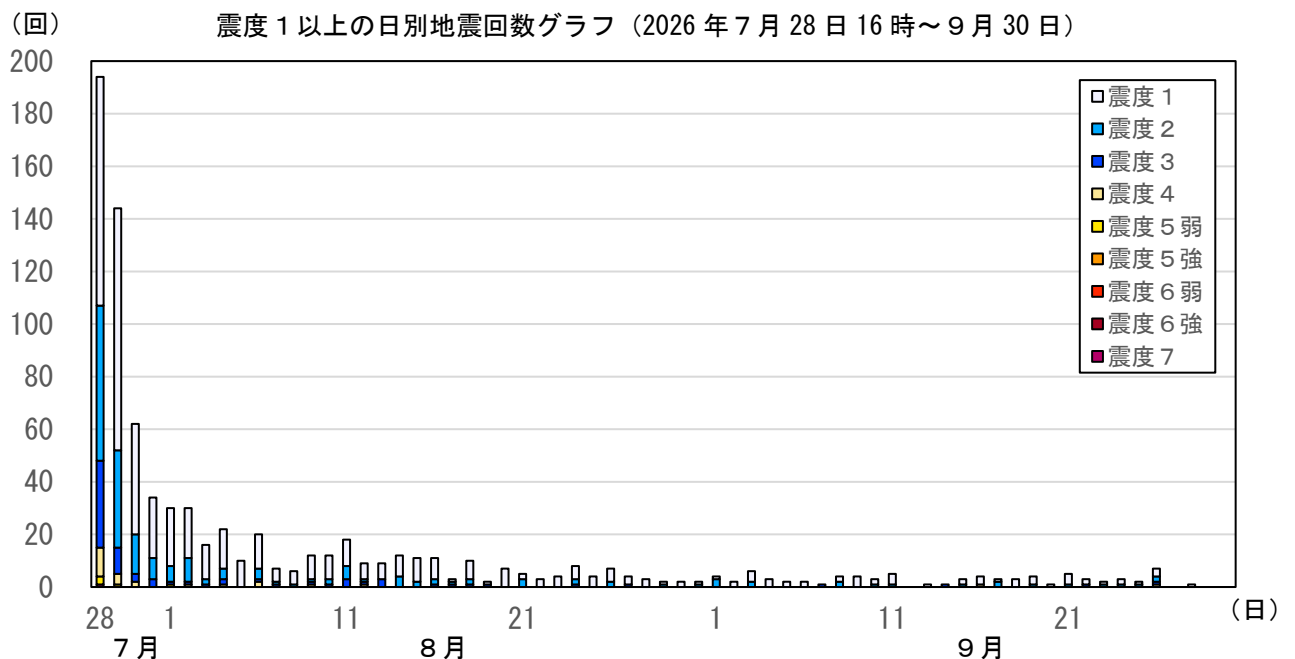


気象庁作成

「令和8年熊本地震」の最大震度別地震回数表

期間	最大震度別回数									合計	累計
	震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7		
7月28日-31日	244	119	49	17	4	0	0	0	1	434	434
8月1日-31日	216	56	22	6	1	0	0	0	0	301	735
9月1日	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4	739
9月2日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	741
9月3日	4	2	0	0	0	0	0	0	0	6	747
9月4日	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	750
9月5日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	752
9月6日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	754
9月7日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	755
9月8日	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	759
9月9日	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	763
9月10日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	766
9月11日	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	771
9月12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	771
9月13日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	772
9月14日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	773
9月15日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	776
9月16日	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	780
9月17日	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	783
9月18日	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	786
9月19日	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	790
9月20日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	791
9月21日	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	796
9月22日	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	799
9月23日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	801
9月24日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	804
9月25日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	806
9月26日	3	2	1	1	0	0	0	0	0	7	813
9月27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	813
9月28日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	814
9月29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	814
9月30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	814
合計	514	194	75	25	5	0	0	0	1		814

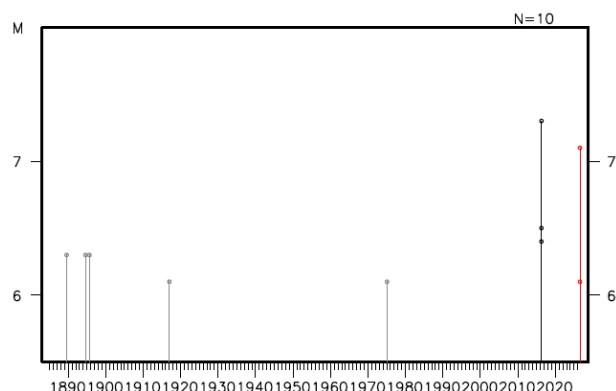
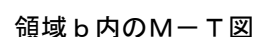
※この資料は速報値であり、後日の調査で変更されることがある。



気象庁作成

(1885 年 1 月 1 日～2026 年 9 月 30 日、
深さ 0～50km、 $M \geq 6.0$)

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

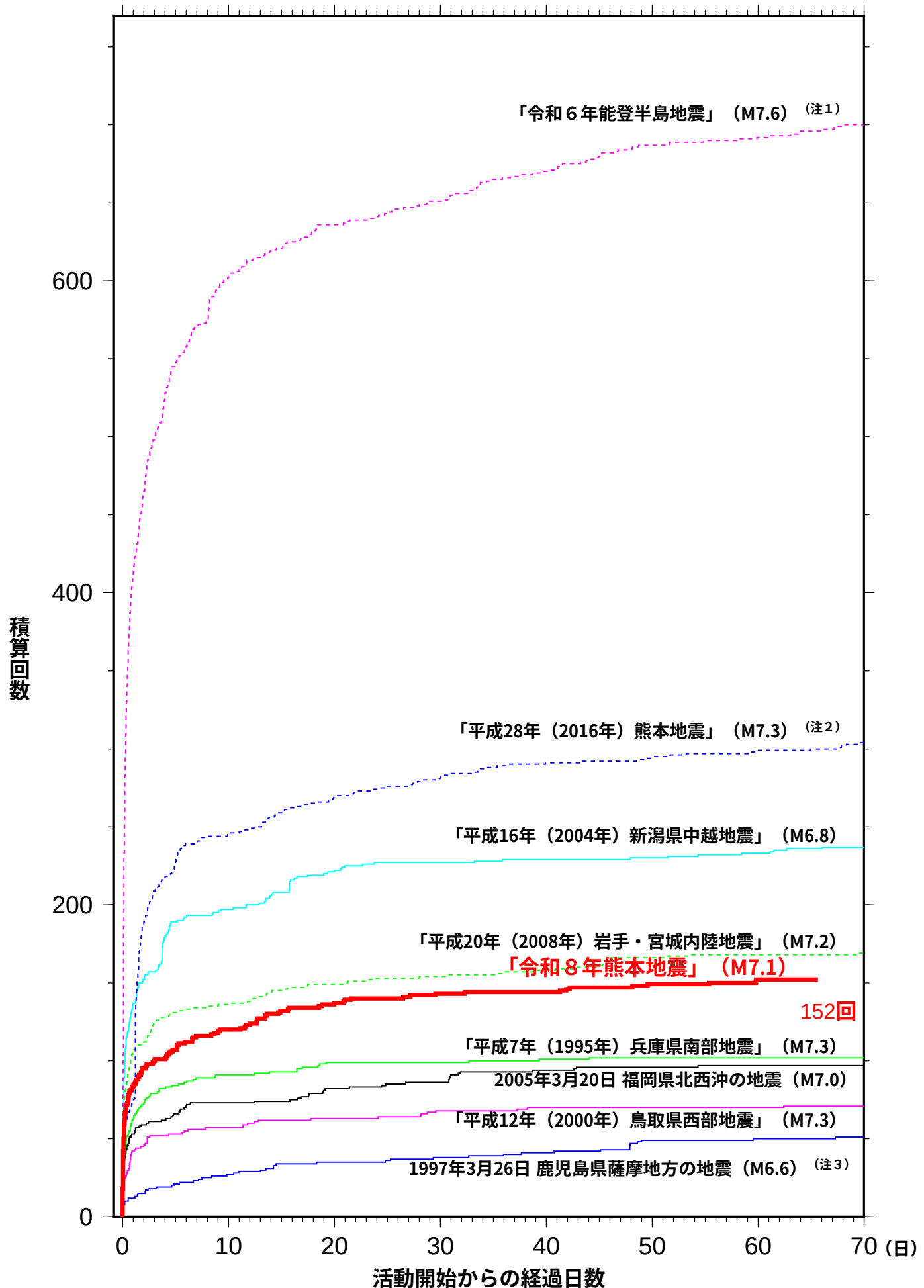


(震源要素は、1885 年～1918 年は茅野・宇津
(2001)、宇津 (1982, 1985) による※)

茅野一郎・宇津徳治（2001）：日本の主な地震の表，「地震の事典」第2版，朝倉書店，657pp.

地殻内で発生した主な地震活動の地震回数比較（マグニチュード3.5以上） (回)

2026年10月02日08時00分現在

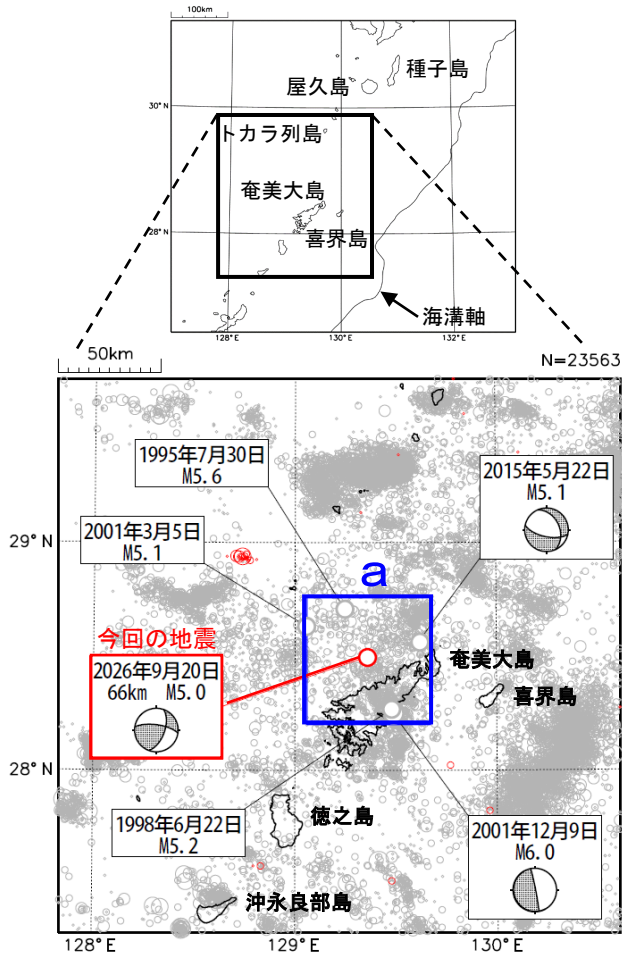


※この資料には速報値が含まれており、後日の調査で変更することがある。
※「」書きは気象庁が定めた名称を示す。
(注1) 2024年1月1日16時10分 (M7.6) の地震を起点にカウントしている。
(注2) 2016年4月14日21時26分 (M6.5) の地震を起点にカウントしている。
(注3) 1997年3月26日17時31分 (M6.6) の地震を起点にカウントしている。

気象庁作成

9月20日 奄美大島近海の地震

震央分布図
(1994年10月1日～2026年9月30日、
深さ0～90km、 $M \geq 2.5$)
2026年9月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構はCMT解

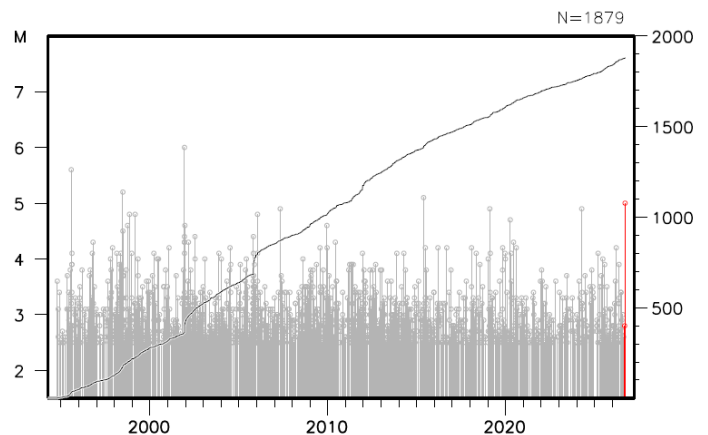


2026年9月20日16時28分に奄美大島近海の深さ66kmでM5.0の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北北西-南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

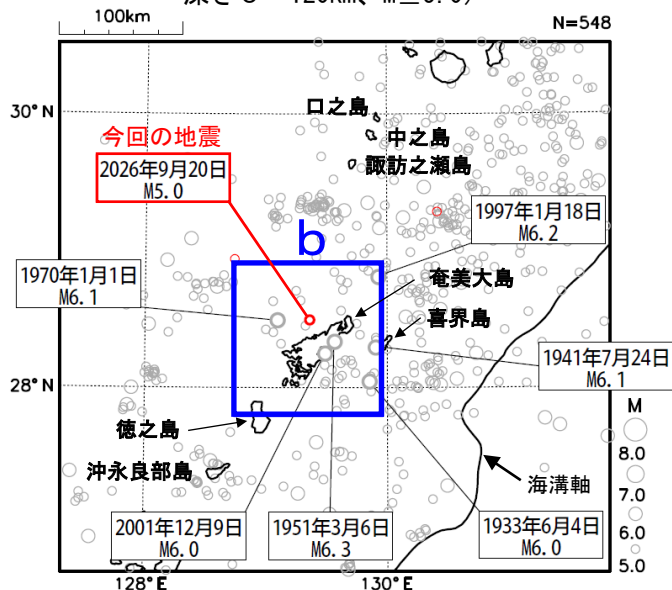
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M5.0以上の地震が今回の地震を含め6回発生している。2001年12月9日に発生したM6.0の地震（最大震度5強）では、住家一部損壊1棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）ではM6.0以上の地震が6回発生している。1970年1月1日に発生したM6.1の地震（最大震度5）では、負傷者5人、住家一部破損1,462棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)



領域b内のM-T図

